

この春リニューアル

—白山図書館、朝霞分館—



4 キャンパス図書館紹介	2～3
図書館を利用して、卒業論文の準備は早めに (常務理事／経営学部教授 穂山幹夫)	4
図書館ワールドにぜひ (社会学部助教授 西野理子)	5
報告「東洋大学附属図書館蔵書展：時空間へのご招待」	6～7
図書館を活用するために	8
表紙写真：『東洋大学附属図書館所蔵資料図録集』（解説はP.6）	

4 キャンパス図書館紹介

平成9年板倉図書館,平成14年工学部分館の新館オープンに続き,
平成17年は白山図書館,朝霞分館を改装しました。
皆さんの来館をお待ちしています。気軽に声をかけてください!

白山図書館



ガイダンスについて

2種類のガイダンスがあります。
新入生ガイダンスは新入生教育のなかで行います。

① 新入生ガイダンス

新入生・進級ガイダンス時に開催、パワーポイントを使用し
て説明します。

配布物:「図書館利用のしおり」「図書館活用ガイド」

日程:4月7日(木)、8日(金)、9日(土)

詳細は、就学手続書類・学内掲示・Web情報掲示板・
図書館ホームページ等でお知らせします。

② 図書館ガイダンス

図書館内で行うガイダンスです。

新入生ガイダンス終了後、5月下旬まで開催予定。

図書館ツアーやOPAC利用説明等を予定しています。

詳細は、図書館内掲示・配布資料でお知らせします。

リニューアル情報

平成17年4月からの文系5学部(文・経済・経営・法・社会学部)
第1部一貫教育のため、館内を大きく変更しました。

●カウンター増設	既存の地下1階のほか、1階、地下2階に設置。	
●入館ゲート増設	2通路から3通路にしました。	
●情報端末増設	OPAC専用端末→1階:3台、地下1階:12台、 地下2階:7台(電動書庫内含む) データベース端末→地下1階:26台になりました。	
●視聴覚資料コーナー 個人ブース増設	22ブース増えて、53ブース(1人もしくは2人用)にしました。 ※3人以上で使用のブースはなくなりました。	
●グループ学習室を分割	今までのグループ学習室1を分割して使用することになりました。	
●自動貸出装置増設	1階に1台、地下1階に2台、地下2階に1台設置しました。	
●返却ポストの増設と 常時開放	6号館1階、休講掲示板右に設置しました。 ※図書館入口右の返却ポスト同様、学内入構可能時間は常に開いています。 返却のみの方はこちらをご利用ください。	

上記のほかに書架増設、所蔵資料移動などの変更があります。
図書館に足をはこび、新しくなったところを見つけてみてください。

朝霞分館



ガイダンスについて

① 新入生ガイダンス

新入生教育の一環として開催します。

日 程：4月7日（木）

内 容：図書館の利用方法について

配布物：「図書館利用のしおり」「図書館活用ガイド」など

その他詳細は掲示等でお知らせします。

リニューアル情報

4月より朝霞キャンパスでは、新たにライフデザイン学部がスタートしました。

図書館は、ライフデザイン学部に関する資料の充実を図るとともに、従来の資料も所蔵しておりますので、これからも積極的に利用してください。

また、車椅子対応のため、エレベーターと2階トイレを改修、およびエレベーターホールから入退館ゲートまでの通路を設けました。

工学部分館



ガイダンスについて

① 新入生ガイダンス

新入生教育の一環として開催します。図書館利用の基礎知識を、パワーポイントを使ってわかりやすく紹介。新入生の皆さんの「図書館では何ができるの?」という疑問を解消します。

日 程：4月7日（木）

配布物：「図書館利用のしおり」「開館カレンダー」

「東洋大学図書館ニュース・コスモス」

② 図書館ガイダンス

「探している本がどこにあるかわからない」「もっと効率よく資料を探したい」悩めるあなたに図書館活用術をお教えます。新入生はもちろん、在生も自由に参加できます。

図書館の上手な使い方を覚えて、勉強に役立ててください。

詳しい日程・内容は館内掲示板「図書館からのお知らせ」をご覧ください。

板倉分館



ガイダンスについて

① 新入生ガイダンス

新入生教育の一環として開催します。

日 程：4月7日（木）、8日（金）

内 容：図書館の利用方法について

配布物：「図書館利用のしおり」「開館カレンダー」

「東洋大学図書館ニュース・コスモス」

「図書館ツアーのお知らせ」「図書館活用ガイド」

② 図書館ツアー

日 程：4月11日（月）～15日（金）

図書館ツアーはどなたでも参加できます。新入生はもちろん図書館の利用方法やサービスについてもっと知りたい!という在生も大歓迎です。

詳細は掲示でお知らせしますのでそちらをご覧ください。

図書館を利用して、卒業論文の準備は早めに

・東洋大学常務理事
・東洋大学経営学部教授

穂山 幹夫

(あきやま みきお)



学生諸君から「どうしたら良い論文が書けるのでしょうか。」という質問をしばしば受ける。われわれ研究者にとっても良い論文の作成は極めて難儀なことであり、われわれの方がむしろその答を知りたい思いである。ただ、良い論文を書ける「条件」がないことはない。それは作成に十分な時間をかけるという、何でもないことがらである。ほんの一瞬の閃きが意外な着想を与えてくれ、独創性のある論文を完成する力になってくれる場合もないでもない。しかし、私の経験からしても、時間をかけて文献や資料を丹念に渉猟し、構想を暖め、熟考した論文は比較的できが良く、おっつけ仕事の論文は雑駁なものとなることが多い。この点は卒業論文の作成についてもまったく同じであろう。それゆえ、学生諸君が良い卒業論文が書けるという保証は得られないとしても、早い段階から準備をするという日頃の努力と心がけ次第では、良い論文を書ける条件を得ることは可能である。

時間をかけるという条件には、当然のことながら文献、資料の収集という作業も含まれる。その作業のために、蔵書数約120万冊、内外の雑誌約1万9千種類を擁する本学図書館の利用は不可欠である。私のゼミでは、4年生には4月早々に2万字の卒業論文草案を提出させるとともに、夏休み前の最終の授業時には卒業論のテーマに関わる論文50本を図書館でコピーさせ、その現物を教室に、持参させている。因みに、修士論文の場合にはこの数は100本になる。これは、文献や資料収集がいかに時間をとり、大変なことを実感させるためでもある。たんにリストを作成しただけではその大変さは分らない

いからである。多くの学生諸君の論文作成作業が本格化する秋口は図書館のコピー機はいつもフル稼働の盛況となり、資料のコピーもままならない状況となる。そんな光景を横目に、ゼミ生諸君はこの大事な時期に論文作成に没頭することができる。この時期に至り、ゼミ生諸君はなぜあのような作業を夏休み前に課したのかという、私の親心を初めて理解してくれることになる。

早い段階からの資料収集は、資料の読破に十分な時間をかけられることになるし、論文などの注記からさらに必要な資料を連鎖的に探し当てることを可能にもしてくれる。時間的な余裕があればこそ、不足する資料が本学の図書館にない場合には、他大学や他機関の図書館へも足を運ぶこともできるであろう。たとえば、コピー代がやや高いものの、国会図書館の利用も考えられるし、東洋大学も一員となっている、山手線沿線私立大学図書館コンソーシアムを積極的に活用する手もある。また、専門の領域に特化した図書館もあるので、それらの図書館の利用も意外と大きな力となってくれる。私のゼミでの研究テーマに関して言えば、ゼミ生諸君は日本公認会計士協会や日本税理士連合会などに併設された専門領域の図書館にも足繁く通っている。

ともかく、早めの準備をし、時間を十分にかけることが良い論文を書くためのなによりの秘訣であるということを肝に銘じておくことが必要であろう。

と言いながらも、締め切り期日後に編集子よりの督促を受けてこの原稿を急遽仕上げている怠惰なわが身を省みて、内心忸怩たる思いである。

図書館ワールドにぜひ

・東洋大学社会学部助教授

西野 理子
(にしの みちこ)



あなたは、図書館というと、明るい、暗い、どちらのイメージをもちますか。広い、狭い、どちらでしょうか。

図書館は広くて明るいです。閲覧室をご覧ください。自宅では考えられない大きな机(一人分ではないけれど、すいていれば使いたい放題!)、快適性を考慮して選ばれた、どっしりした椅子。高い天井、整備された空調と採光。とりわけ東洋大学白山図書館はまだ新しく、静かな思考空間を提供してくれています。

そして、図書館は暗くて狭いです。開架式でも、書棚の間に入り込むとけっこう暗いですね。天井近くの高いところまで本が詰まっていますから、圧迫感があります。さらに、書庫にもぐりこんでみてください。電動の移動書架のある書庫に入るともっと暗くて狭いですね。窓がなく、人工灯に照らされた空間。どこまで続いているか書棚に阻まれて見通せない不安さ。それに、山のような本がそっと放っているインクや紙のにおい。ボタンを押すと、書棚と書棚の間の真っ暗な隙間が“ウーン”という音をたてて開かれていき、まるで30年前のさびれた旅館のような蛍光灯がパッとつく。明かりが暗いわけではないのだけれど、なんだか寂しい気持ちにするのは私だけでしょうか。

でも、私はそんな図書館が大好きです。図書館は、日常生活とは切り離された時間と空間に私を置き去りにしてくれます。ここでの日常とは、食べたり寝たりくつろいだり…という意味です。図書館内は飲食禁止で、一応寝る場所はなく(机で寝ている人は多いけれど)、とりあえずは真剣に勉学するための場所です。たとえ日参するにしても、図書館に入った瞬間から、瑣末で多忙な日常から断絶され、わが身一人になるわけです。あるのは本ばかり…。そう、図書館は一人でひそかに楽しむミラクル・ワールド。

書庫に座り込んで本をながめるもよし。閲覧室で本を広げるもよし。現在は図書館も高機能化していて、個室にグループ学習室、ビデオなどの視聴室まであります。私が卒業した大学では、図書館の屋上からの眺めがよく、くつろぎの“穴場”になっていました(その後、新図書館ができて古い図書館は博物館になってしまいましたが)。そうそう、1年に1ヶ月だけ展示される有名な収蔵壁画というのもあり、季節を感じさせられました。当学でも貴重な所蔵品の展示がたまにありますね。

ぜひ、図書館の空間を楽しんでください。図書館の空気やにおい、一人ぼっちの暗いけれどひそかに楽しい気持ち。現代は情報のデータベース化が進んで、あらかじめキーワードで検索して必要な本だけを取りに図書館に来る人が多いようですが、本棚の前に立ち止まって、並んでいる本の背表紙を眺め、面白そうだなと思った本を手にとってみてください。意外な出会いがあるものです。本にすっぽり包まれ、胸躍る時間をすごしてください。

たとえば新聞記事にしても、PC上で検索して記事を引き出して終わり、というのではなく、検索した記事を縮刷版でもいいから、その日付の新聞記事で目にしてください。データベースは便利なのですが、実際の新聞記事を見ない限り、見出しの大きさや新聞記事の中での配置、さらにはその記事の持つインパクトを知ることはできないはずですよ。

活用ということであれば、図書館は楽しむものであって信じすぎないこと。自宅近くの町営図書館や当学の図書館だけで本を探して「なかった」なんて言わないこと。便利な世の中ですから、図書館間や情報検索のネットワークというデジタル情報は大いに活用しつつ、図書館のアナログな雰囲気を楽しみましょう。

【報告】

「東洋大学附属図書館蔵書展： 時空間へのご招待」を開催しました。

東洋大学は平成16年度を“神奈川YEAR”として神奈川県で様々な行事を行いました。

図書館も11月20日（土）と21日（日）の2日間に渡り「東洋大学附属図書館蔵書展」を開催しました。

会場は横浜ランドマークタワーという非常に良い立地条件にある、富士通ショールームをお借りし、横浜港の眺望も満喫しながらとなりました。

蔵書展は、1. 貴重書を中心とした蔵書の展示、2. 講演会、3. 東洋大学図書館をバーチャルで体験して

もらうコーナー、4. 『東洋大学附属図書館所蔵資料図録集』の刊行などの内容で行いました。

この2日間に、神奈川県の方を中心とした一般の方をはじめ、学生、大学関係者の来場は658名を数えました。アンケートでのご意見・ご感想を含め、継続開催を望む声も多くあり、好評のうちに終了することができました。会場提供、広報、講演など様々な形でご協力いただいた方々に感謝いたします。



● 展示会場

『東洋大学附属図書館所蔵資料図録集』の紹介

この図録集は、昨年東洋大学が行った“神奈川YEAR”に図書館企画として開催した蔵書展に関連して刊行されたものです。

附属図書館は、重要文化財に指定されている『狭衣』をはじめ、絵巻物、奈良絵本、百人一首のほか洋書の古典籍や東洋大学ゆかりの資料など、数多くの貴重書や稀覯本を所蔵しています。その中から、選りすぐりの71点を全点カラー写真で紹介しています。

今回初めて紹介された『すみよし』や百人一首版木、また“神奈川”にちなんで『東海道中膝栗毛』や『横濱久里毛』なども収録されています。B5版で110ページほどの小冊ですが、是非一度、手にとってご覧ください。



● 開会式

講演会

11月20日（土）と21日（日）の両日、同じ会場内で展示と並行して講演会を開催しました。蔵書展や横浜にちなんだ内容を、大学のゼミのような雰囲気の中で聞いていただきました。聴講者は、幅広い年齢層の皆さんで、会場となった部屋いっぱいの座席を埋め、講演終了後も和やかに質問が続きました。



講演演題：
「膝栗毛もの」と神奈川・横浜
講 師：中山 尚夫
(東洋大学文学部教授)



講演演題：
『小倉百人一首』—その謎と魅力に迫る
講 師：河地 修
(東洋大学文学部教授)



講演演題：
日本の博物学の祖
フランツ・フォン・シーボルト
講 師：岡田 朝雄
(東洋大学文学部教授
日本昆虫協会副会長)



講演演題：
幕臣と開国—ペリー来航前後
講 師：小池 喜明
(東洋大学附属図書館長
東洋大学文学部教授)

図書館をバーチャル体験

蔵書展会場の一角に、来場者が自由にパソコンを操作して白山キャンパスの図書館をバーチャル体験してもらうコーナーを設けました。

簡単に内容を紹介しますと、画面をクリックすると文京区都市景観賞を受賞した「甬水の森」が浮かび上がり、ゆっくりと坂を上がるように画面が展開し井上円了の銅像前に到着。そこから図書館がある2号館入口が見え、移動ボタンで中に入ると『図書館探訪』『貴重書公開』『宝探し』の三つのメニューが現れます。『図書館探訪』では三つのフロアを自由に移動し360度見渡したりすることができ、館内の各コーナーは機能・特色などを静止画と解説文で紹介しています。『貴重書公開』では本学所蔵の貴重書の一部が解説文付きで見られます。最後の『宝探し』は、マウスを動かしながら館内に隠れている「本」を見つけ、クリックするとクイズ画面に進む展開になっています。会場は必死

に次の問題を探す親子連れの姿も見られるなど、多くの方に楽しんでいただけたようです。現在、来場者からいただいた要望などを検討し、多くのみなさんに体験していただけるようにしました。

アクセス方法 東洋大学附属図書館 HP → 東洋大学図書館を探検しよう！
<http://www.toyo.ac.jp/libra/NET/index.html>



● バーチャル体験室

図書館を活用するために

東洋大学附属図書館では、利用者がよりよく図書館を利用できるような案内を作成し、各館で常時配布中です。

☆「図書館利用のしおり」

図書館の利用方法について詳しく説明しています。

困ったことがあれば、まず「図書館利用のしおり」をご覧ください。

☆「図書館活用ガイド」

1つずつテーマを絞って、わかりやすく解説しています。

- ・「図書館をフル活用しよう！ぼくの図書館利用日記」
- ・「図書の探し方 OPACを使おう！」
- ・「OPACを使って図書を予約しよう！」
- ・「WEBで簡単！データベースに挑戦！」
- ・「論文や雑誌記事を検索しよう！」
- ・「どうする？どうする？論文・レポート作成」



「図書館活用ガイド」

☆「図書館ホームページ」 URL: <http://www.toyo.ac.jp/libra/>

図書館の外からでも所蔵検索が可能です。

データベースは図書館以外でも学内であれば利用可能です。

図書館からの最新のお知らせを掲載します。



「図書館ホームページ」

☆ 東洋大学図書館ニュース・コスモス「ΚΟΣΜΟΣ」

図書館の広報誌で、利用者の皆さまとのコミュニケーション・ツールとして発行しています。

特集記事や資料の紹介などを掲載しています。次回の発行は2006年4月1日の予定です。

「ΚΟΣΜΟΣ」とは・・・宇宙または世界を意味するギリシヤ語です。

「東洋大学図書館ニュース」は1966年6月1日に創刊号が発行され、1971年6月15日発行の通巻14号から「ΚΟΣΜΟΣ」というタイトルに変更して現在に至っています。

知っていますか？ 著作権について

著作権とは知的財産権（知的所有権）の一つです。

文化的な創作物（＝著作物）と、その創作者（＝著作権者）の権利は、著作権法という法律で保護されています。

図書館では著作権法第31条に基づき、以下のような条件で複製（コピー）することが可能です。

1. 図書館が所蔵する資料
2. 1人につき1部だけ
3. 公表された著作物の一部（個々の著作の半分まで）
4. 雑誌類については一論文の一部分、ただし、発行後一定期間経過したものについては一論文全て著作権を守って、資料をご利用ください。

東洋大学附属図書館では利用者の個人情報を無断で第三者に公表することはありません。

安心して図書館をご利用ください。

東洋大学図書館ニュース・コスモス No.146 2005年4月1日発行
編 集：コスモス編集委員会
発 行 人：小池 喜明
発 行 所：東洋大学附属図書館 東京都文京区白山5-28-20 Tel.03(3945)7324